

<パンフレット—三つ折、6 パネル>

<表>

<パネル 1 : 表紙>

西海国立公園

九十九島ビジターセンター

<キャッチコピー案>

九十九島の自然を発見しよう

木々に覆われた数百の島々、広大な天然の海岸線、そして魅力的な動植物。九十九島は自然を愛する人の楽園です。九十九島ビジターセンターで、この美しい生態系の自然環境と野生生物について学びましょう。

<パネル 2 : アクセス>

アクセス

九十九島ビジターセンターの所在地

<地図>

九十九島ビジターセンターは九十九島パールシーリゾート内にあります。JR 佐世保駅から車または佐世保市営バスで簡単にアクセスできます。車で来場される方のために、700 台分の有料駐車場をご用意しています。

西海国立公園

九十九島ビジターセンター

〒858-0922 長崎県佐世保市鹿子前町 1055

TEL : 0956-28-7919

FAX : 0956-28-7351

<http://kujukushima-visitorcenter.jp/>

<パネル3：ビジターセンターの紹介>

九十九島ビジターセンターによるこそ

ここは九十九島の豊かな自然について学ぶのにぴったりの場所です。インフォメーションカウンターの近くにある珍しいぬいぐるみに気づきましたか？これは九十九島に生息するウミアメンボという昆虫です。ウミアメンボを非公式マスコットにしたビジターセンターの職員たちは、九十九島の生き物と植物に対する情熱にあふれており、喜んで来場者ともその知識を共有します。

当ビジターセンターは九十九島についての情報を伝えるだけでなく、研究、討論、教育などの活動のためにも重要な場所となっています。センターにある数多くの展示では、九十九島と西海国立公園全体の独特な自然の特徴を紹介しています。

自由に展示を閲覧し、聞きたいことを職員に質問してください。そうすることで、センターのすぐ沖にある九十九島の広さ、多様性、そして美しさをより深く理解できるでしょう。

<フロアマップ>

2F

講義室

ソーラーパネル

1F

1

シーカヤック - 島々を巡るのに最適な方法の一つ

2

インフォメーションラック

3

西海国立公園と九十九島の紹介

4

九十九島の四季

5

九十九島の生態系

6

九十九島の複雑な構造 - 島はどのように形成されたか？

7

島々の特徴

8

珍しい発見

9

インフォメーションリサーチカウンター

<パネル4：九十九島の紹介>

九十九島の多様な島々

九十九島は「99 の島」という意味ですが、九十九島ビジターセンターのすぐ向こうの湾には、実際には208 の島があります。この密集した多様な島々は、日本中で最も高密度の島群だと言われています。ここでは、干潮時と満潮時の水位に約3～4メートルの差があり、288キロメートルにおよぶ天然の海岸線には、砂浜、岩礁、干潟が混在しています。

島々を巡る

208 の島は動植物であふれています。海岸線の81.5%は今でも開発を免れており、ここには多くのいきものが住み、繁殖しています。また、美しく、そして多くの場合希少な植物が海岸と海中で育ち、花を咲かせます。

大部分の島は自然のままの無人島ですが、いくつかの島には小さな集落があります。この地域最大の島である黒島には400人が住んでおり、他の3島には60から170人が定住しています。

島は簡単に探検でき、いくつかのアクティビティの選択肢があります。ビジターセンター近くには、島の間を50分でクルーズする遊覧船のドックがあり、プライベートクルーズには小型船も利用できます。アウトドア愛好家は近くでカヤックを借りられます。

探検に出かける前に九十九島ビジターセンターで島の天然記念物について学び、この場所の美しい自然について理解を深めましょう。

<パネル5：動植物>

九十九島の海岸線は約353kmで、その81.5%は自然海岸です。この数字は、これが日本で最も自然が残されている海岸線のひとつであることを意味します。数百種の魚類、鳥類、ほ乳類、軟体動物、

花、植物が慎重に保護されたこの海岸に暮らしています。

この海岸と島には多岐に渡る動植物が生息しています。九十九島の砂、泥、岩の浜辺では、よく生きた化石とも称されるカブトガニ(*Tachypleus tridentatus*)など、多数の希少種や絶滅危惧種の生物に出会えます。“Samurai helmet crab”としても知られるこの古代生物は、アジアの他の地域では個体数が激減しているものの、九十九島の海岸線沿いには非常に多くがやってきて産卵します。

泥の多い海岸では、肺呼吸するドロアワモチ(*Onchidium hongkongensis*)の領域で、ドロアワモチはシオヤガイ (*Anomalocardia squamosai*) という小さな白い二枚貝と同様、日本の主要四島ではほぼ絶滅しています。ハクセンシオマネキ (*Uca lactea*) やコメツキガニ (*Ilyoplax pusilla*) のような希少な甲殻類も海岸線沿いを駆けまわります。

九十九島には、コウボウムギ (*Carex kobomugi*) などの絶滅危惧種の植物が生育しています。スゲは砂質の土壤に育ち、砂丘を安定させます。無人島であるトコイ島で 2000 年に行われた調査では、日本では絶滅したと考えられていた紫の花を咲かせる保護種の植物、トビカズラ (*Mucuna sempervirens*) の存在が発見されました。

<第 6 面：西海国立公園/利用規則>

西海国立公園

九十九島は、400 以上の島を含む九州北西部の広大な地域、西海国立公園の一部です。この国立公園は、佐世保から遠く離れた五島列島まで広がっています。

この広大な地域には、九十九島の入江から、五島列島と平戸島の火山性柱状節理から生まれた崖海岸まで、非常に多様な地質学的・生物学的見どころがあります。比較的手つかずの海岸線は、カブトガニ、干潟に住む小さな軟体動物であるドロアワモチ(*Onchidium hongkongenes*)など、日本の他の場所では実質的に姿を消した希少種・絶滅危惧種を含む多くの動植物に重要な生息域を与えています。何千羽もの渡り鳥がここで冬を越すか、アカハラタカ(*Chinese sparrowhawk*)やハチクマ(*crested honey buzzard*)のように、東南アジアに越冬に向かう途中で通過します。

また、西海国立公園では豊かな文化遺産を巡ることができます。迫害を逃れるためこの地に移住した潜伏キリシタンの島の教会を訪ね、捕鯨の伝統を学び、佐世保の海軍基地の歴史を発見しましょう。

島でのエチケット

独特で繊細な九十九島の自然を守るためにご協力ください。

- カヤックまたはプライベートボートで島に向かう場合、潮間帯(干潮時に現れる陸地の領域)か、島所有

者の許可がある(たいていの島は私有です)場合しか上陸は許されていません。この地域にある動植物を踏んだり干渉しないよう注意してください。

- ごみはすべてお持ち帰りください。
- 植物と貝は見つけた場所のままにしてください。
- ペットの上陸は禁じられています。
- 釣りは潮間帯でしかできません。
- 潮に注意してください：海は穏やかに見えますが、潮は高さ 4 メートルまで、急に上昇します！